

平成26年度(2014年)

《第4号》

# 貞香会 会報



# 五十回記念展へ向かって



貞香会会長 赤平泰 勉

会員の皆様の御協力により、第四十九回貞香書展・総合書展を無事終了することが出来ました。ありがとうございます。

会期中に開催された講演会は、東京国立博物館の富田淳先生を迎え、台北故宮博物院の名蹟についてのお話で、意義深く、丁度東京国立博物館での展示とびつたりで大変好評でした。

外部の先生方の貞香会への理解も一層深くなってきました。しかし、貞香の書・書展の運営に関してはまだまだ検討することがあります。故宮の書が何故あんなに多くの人達を集めることが出来るのか、書を学び、書を発表する我々も原点にかえって考える必要があります。貞香会も今の人達にうったえていく魅力ある書を一人一人の力で打ち出し築き上げていくことが必要であると思われます。書作する目的は皆それぞれ

れあるでしょう。展覧会を開催することは、多くの人達に見ていただくことも大切な要素で、出品者が声をかけあつて一人でも会場に足を運んでいただく努力と体勢作りを役員と共に考えていきたいと思ひます。

中村素堂先生が提唱されたように、古典の学習の中に現代をみつめ、今に生きる書の表現―硬質の書、新文人主義を發展させることが私たちの使命です。堅固な思想的裏付けを持つて、書者の生き方が見えるような書、個性的で躍動感のある書を目指し、会場一杯に貞香の書の花を咲かせたいものです。五十回記念展は、中村素堂先生の教えを顕彰することと同時に、作品の充実が問われます。中村素堂先生の作品と一緒に展示されることの意義・感動・喜びを確かめて作品制作に励みたいと思ひます。

# 第五十回記念展にかける想い



理事長 中村 青 藍

貞香会の創立は一九二三年（大正十二年）二月。今年で創立九十三周年目に入ります。

貞香会の歴史と伝統をたどれば創立者の中村素堂先生の偉大なる功績に敬意を表し、そのカリスマ性の魅力に会員一同洗脳されて来たと言っても過言ではないでしょう。素堂先生自身、「私は素堂宗の宗祖様でねー」とよく冗談を言っていたのを思い出します。

素堂先生の理念は奥深く、格調の高い書を真髄とし、多くの語録を残されています。その中の一つに、「書を習う者は篆隸楷行草・仮名・詩文書の全ての書体に精通するもの」という教えがあります。これに加えて「下手でもいいから格調の高い書を書きたまえ」とも言っています。その秘訣はと弟子の間に、先生曰く「君、普段の生活だよ」と答える。また「仏様の教えられた通りに生活することだ」とも言う。解けない問題だ。

貞香会が主催する二つの書展は、一月中旬に貞香会総合書展が東京都美術館で開催し、六月には第五十回記念貞香書展を国立新美術館で開催します。いずれも展示作品は素堂先生の理念を受け継ぎ書体、書風の豊富さが評価され貞香会の強みになっています。

「さあ五十回記念展がやって来るぞ。」と意気込んでから早数年が経ちました。格調の高い力作が会場狭しと陳列される姿を夢見て企画・演出共、最高級の書展を目指そうと役員一同張り切っています。

思い返せば約半世紀餘に亘る貞香書展の歴史の第一回展は一九四九年（昭和二十四年）五月に小石川の伝通院で開催されたのが始まりです。現在の様に公募展方式になったのは第八回展の上野の森美術館の開催からです。私のデビューはこの時からでした。

一九七五年（昭和五十年）九月に現在の東京都美術館がオープンしたのを期に第十一回展から第四十一回展までは毎年一月中旬に開催してきました。一月中旬は今も貞香会総合書展に受け継がれています。又、二〇〇七年（平成十九年）に国立新美術館がオープンすると同時に貞香書展は第四十二回展から都美から国立新美に移して現在に至っています。

美術館のオープンと共に貞香書展は歩んできました。第五十回記念展は「併催・中村素堂遺作展」を同時開催いたします。一緒に出品して盛り上げてくださることをご期待申し上げます。

# 平成二十六年 貞香会総会報告

平成二十六年定期総会は、一月十九日(日)午後三時から、東京都美術館講堂において開催されました。総会には顧問の荒木大樹先生、中村素岳先生、参身の大野宜白先生、中谷春径先生、松本宜響先生、若井香樹先生のご臨席のもと、四九名の会員の出席をもって開催となりました。

総会は、鈴木蓮徑理事の司会で進められ、開会のことは中村青藍理事長が行い、続いて挨拶に立った赤平泰処会長は、貞香会は昨年九〇周年という記念の年を迎えた。これは創立者中村素堂先生の教えを脈々と継承してきたことにある。節目の年に今一度再確認をしてほしい。また、貞香会は数多い書道団体の中で、東京都美術館が主催する「二〇一四書道団体の今」に出品する団体選ばれている。会員ひとりひとりの書作品に対する思いを更に高め、充実した作品の発表を期待している。そして、貞香書展五〇回の記念展に向けて何より重要なことは会員相互の協力である。理事の皆さんと力を合わせて、成功のためにご尽力をいただきたい。との旨を述べられました。

次に委任状の確認を司会より報告があり、会員数二二〇名の内、総会出席者四七名、委任状提出者一二六名、合計一七三名になり、総会が成立いたしますと報告がありました。議長には大野宜白参与が選任され議事に入りました。

先ず、第一号議案の平成二十五年度事業報告が根本泰邸事務局長より、第二号議案の平成二十五年度決算報告が後上菁華理事よりあり、その後、会計監査報告が真下良祐監事よりあり、一括承認されました。次に、第三号議案の平成二十六年事業計画案が根本事務局長より、第四号議案の平成二十六年予算案が後上理事より提案され一括承認されました。

その他の議事について、理事会で検討が進められている、貞香会創立九〇周年記念事業並びに第五〇回記念貞香書展へ向けての取り組みが根本泰邸事務局長よりありました。その他の議事特になく、大野議

長が拍手の中、議事が終了したことを宣しました。最後に奥山泰嶺副理事長の閉会のことばで総会が無事終了いたしました。

これにつづく懇親会も八十名程の参加で盛況でありました。その席上では、赤平会長より毎日書道会の審査会員に長尾泰邨さんが昇格をしたこと、第六六回毎日書道展の審査員は松本宜響参与が務めることが発表され、両氏より挨拶がありました。(根本泰邸記)

## 出席者

荒木大樹 中村素岳 大野宜白 中谷春径 松本宜響 若井香樹  
赤平泰処 中村青藍 奥山泰嶺 今井泰篁 金子正信 後上菁華  
鈴木蓮徑 高橋珠翠 根本泰邸 平林大舒 二木秀蔭 光谷素仙  
山根紅樹 亀和田郁芳 真下良祐 飯野彩心 飯野柳和 岩田映洞  
大屋泰穹 小峰紀州 西郷梅白 坪内雪山 長尾泰邨 中村大如  
中村東泉 半田桃香 細田香瑤 光田秀穂 下川翠雨 末永江春  
中田翠苑 日向野光苑 土方昌和 池田詠香 小澤茜逕 久保田清壺  
立花光琳 津村美由貴 阿部 匠 大塚秀哉 横張正子

## 【平成二十五・二十六年役員名】

〔顧問〕 中村素岳 長谷川耕心 荒木大樹  
〔参与〕 中谷春径 晝間欽堂 室生大韻 八木舜堂

〔名誉同人〕 若井香樹 大野宜白 松本宜響  
〔会 長〕 佐藤中処 後藤鶴台 林田翠龍

〔理事長〕 中村青藍  
〔副理事長〕 奥山泰嶺

〔理事・事務局長〕 根本泰邸

〔理事〕 今井泰篁 柏木南城 金子正信 加茂泰玄  
後上菁華 高橋珠翠 平林大舒 二木秀蔭  
光谷素仙 山根紅樹 鈴木蓮徑

〔監 事〕 亀和田郁芳 真下良祐

「TOKYO書2014」公募団体の今」展

鈴木蓮徑先生 代表出品

1月4日～16日  
東京都美術館

東京都美術館では、毎日書道会、読売書法会、産経国際書会に所属し関東に拠点を置く公募団体から18団体を選定し、その団体から代表として選ばれた次代を担う気鋭作家・38名による大作展を主催。

2014年は2回目の開催で、貞香会より鈴木蓮徑理事が出品。2点の大作を発表した。

またこの展覧会では、会期中3日間にわたり、各会派の代表作家によるアーティスト・トークが行われ、鈴木蓮徑先生は、1月12日(日)午後2時より担当・解説された。



自らの作品を前に、制作に際し撰文した漢詩についての説明や、制作経緯や技法、書への思いなどをギャラリーの皆さんに伝えた。

特に、行草作品について、中国・柳宗元の詩に見える仏教精神と、貞香会創立者・中村素堂先生が仏教信仰に篤かったこと、また仏教書道と伝道にご尽力されたことに触れて説明されていたのが、とても印象的だった。

大作展とアーティスト・トークも、大勢の方々が来場し好評を博した。



# '14 貞香会総合書展

1月19日～24日  
東京都美術館

出品は第一部貞香会役員展129点、第二部書展607点で、過去最高の736点となった。再来年の第50回記念貞香書展に向けて、次回も更なるご協力をお願いしたい。

1月19日午前10時より展覽会場において、大作出品の大塚澄心、川嶋芳岳、大屋泰穹の3氏による席上揮毫会が開かれ、多数の観客が詰めかけた。午後1時から館内講堂において教育部の授賞式が開かれ、受賞者とご家族で会場がいっぱいになるほどの盛会となった。午後3時より同講堂で、貞香会総会が開催され、平成13年事業報告、会計報告が承認されて、更に14年度事業計画等が話し合われた。ひき続き午後4時より一般部の授賞式がとり行なわれた。挨拶に立たれた赤平泰処会長は、「自分の作品を見て満足してはいけません。…」と出席者に更なる奮起を促された。

同日午後5時より館内レストラン「アイボリー」において懇親会が、100名ほどの出席で開かれ盛り上がりを見せた。



席上揮毫会風景



一般部授賞式で挨拶される  
赤平泰処会長



教育部授賞式会場内



懇親会で乾杯の発声をされる  
荒木大樹顧問



挨拶に立つ中村青藍理事長



展覽会場（半紙部）



# 第57回 東方書展

## 第57回東方書展審査の雑感

光谷素仙

今年も昨年に引き続き特別企画としての「俊拔展」の大作が出品されました。各書道団体から選ばれた10名（漢字5名、かな5名）の作品で、貞香会からは中村香柯先生が篆書体の大作（4尺×8尺）に挑戦されました。

私が担当した第一部・公募作品審査を主に記載します。鑑別・審査は例年通り最高会議委員の4人の先生方（林 竹聲・松川玉堂・谷村 雋堂・中村素岳）が中心となり全作品の中から審査対象となる「A」作品が抽出されます。さらに審査員全員が投票し各賞（推薦・特選・褒状）が決定されます。

今年の審査にあたってまず注目されることは、公募作品の出品数の減少です。前回よりも第一部、二部、三部とも減少し合わせて74点もの減少であったことです。また作品は行書が多く、隸書は数点のみでした。作品は単調なものが多く、物足りなさを感じました。それに比較すれば、貞香会の作品は目を引くものが多く、その中では傑出していました。

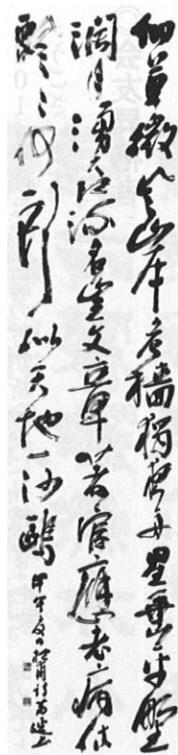
貞香会の公募数は第一部26点、第三部2点の合計28点で推薦1人、特選4人、褒状4人という好成绩でした。入選・入賞された方、おめでとうございます。

入賞された作品は、平澤さんの作品に代表されるように作品構成・空間処理が良く、リズム感のあるものでした。書線の潤濁・太細・強弱等が明確な作品が選ばれていました。

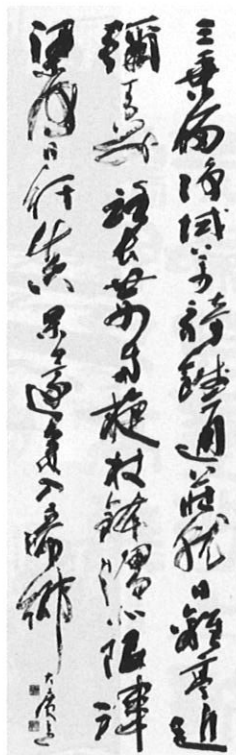
次回展に向けて各個人個人が古典に立脚する基本姿勢を崩さず、なお一層の作品作りに励まれ、努力することを望みます。

## 第57回東方書展（優秀作品）

特別賞・同人推挙 小澤茜逕



第一部推薦 平澤大廣



## 第57回 東方書展 入賞者

特別賞・同人推薦 小澤茜逕

第一部 推薦 平澤大廣

特選 伊藤朱楊 岩崎宏美

褒状 池田詠香 岩田映洞

入選 阿部 匠 稲田祥英

菊地可栄愛 栗原美代子

関口恵子 関根熙雲

津村美由貴 富田青軒

矢口昌華

第三部 褒状 丹野菜亜莉

入選 山口和希子

近藤朗詠 中田翠苑

佐野珠雪 山崎香彩

大塚秀哉 小野 優

下川翠雨 杉山桃月

高橋久美子 立花香琳

西館昭美 菱沼星徑



◎「俊拔展」を併催

平成26年度も「俊拔展」が開催され、貞香会より、同人の中村香柯先生が代表作家として出品されました。4月5日(土)には、展示会場にて俊拔展出品者の作品解説が行われ、中村香柯先生自身の作品を前に、唐の高適の句（夜鐘残月雁帰聲）を題材に、金文を素材にして制作、金文にない字を書くときの難しさや、作品を書くのに使用した筆、墨や制作上で気をつけたことなどを、細かく解説されました。

◎昇格者

第57回東方書展受賞に伴い、東方書道院の規定におきまして、次回展より次の方が昇格になります。おめでとうございます。

〔同人昇格〕小澤 茜選



◎第57回東方書展 審査員作品

〔第1部審査員〕

中村 素岳 光谷 素仙

根本 泰邱 飯野 彩心

〔第3部審査員〕

山根 紅樹



運営委員 赤平泰旭先生



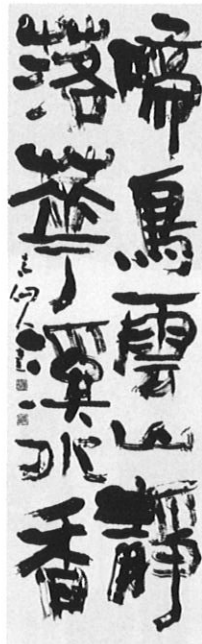
本年度審査員 飯野彩心先生



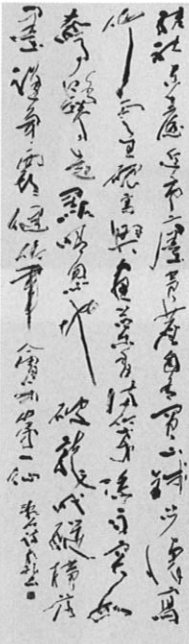
最高会議員 本年度審査員 中村素岳先生



本年度審査員 根本泰邱先生



本年度審査員 光谷素仙先生



本年度審査員 山根紅樹先生

# 第49回 貞香書展

6月25日より7月7日まで、六本木の国立新美術館において、49回目となる貞香書展が開かれた。それに先立つ6月20日、特別賞選考のための外部審査員として、今年は評論家の田宮文平先生をお迎えして審査会が行われた結果、特別賞の一点は末永江春さんの仮名作品が選ばれた。

又、6月29日午前10時半より、館内講堂において、東京国立博物館の富田淳先生により「書譜と黄州寒食詩巻」の講演があり、定員を大幅に越える受講生で会場が埋めつくされた。午後2時から同じ講堂で授賞式が行われ、多数の受賞者が緊張した面持ちで式に臨んでいた。午後5時から場所を銀座のレストラン「サンミ高松」に移して祝賀会が開かれ、来賓を含め100名以上が列席し、盛会となった。7月2日は午後1時より展覧会場において、参与の松本宜響先生による作品解説会が開かれ、多数の参加者が熱心に聞き入っていた。午後2時から館内講堂において、理事長の中村青藍先生、副理事長の奥山泰嶺先生、事務局長の根本泰邸先生の3氏によって席上揮毫会が催され、一作毎に見学者より大きな拍手がわきおこった。来年は50回目の記念展、新たな歴史の一ページに向けて、貞香会はずでに大いに燃えているようだ。



展覧会場



松本宜響先生が  
楽しく作品解説



富田淳先生による講演



理事長の中村青藍先生による  
力強い席上揮毫



田宮文平先生(左)と  
特別賞の末永江春さん

赤平泰処先生(左)と  
特別賞の中田翠苑さん



懇親会にて抽選会  
盛り上がる

# 第49回 貞香書展

## 第四十九回貞香書展所感

中村青藍

第四十九回展の出品総数は三百点。貞香書展の出品点数は第四十五回展をピークに年々減少傾向が続く中、今回展も前回展より八点の減少となった。来年は第五十回の記念展が控えている。出品点数の回復を望みたいところだ。会員の高齢化の問題と若手の育成に向き合い、今年から従来の審査対象の第一部、第二部の内容を共に漢字多・少字数・仮名・詩文書の四部門制に移行して発展を期した。更に出品年齢を従来の十八歳から高校生まで引き下げて早めの育成に取りかかった。結果第二部に高校生の作品が七点出て面白い材料となった。

今回審査対象となった作品は、準同人三十点、鑑別会員四四点、会友一部公募六三点、二部公募九一点の計二二八点でした。部門別出品比率を見ると、一部は漢字多字数作品が七六％(四八八点)、二部は漢字少字数作品が七九％(七二二点)で共に圧倒的に漢字作品の出品率が高かった。一・二部合わせた公募全体で見たと比率では漢字多字数部門が三七％(五八八点)、同少字数部門が五〇％(七七七点)、仮名部門一〇％(一五五点)、詩文書部門三％(四四点)という想定内の結果であったが、来年の動きに期待が持てた。

特別賞・推薦の選考については、特別賞二点、推薦四点がめでたく受賞された。特別賞は、昨年より一点は外部の審査員に依頼し、今年も田宮文平先生にお願いした。仮名作品を書いた末永江春さんの作品が選ばれ、講評は展覧会会場に貼り出された。

審査は公平厳正を旨とし、作品の内容で審査された。入賞作品は一つの部門に偏らず、高校生からも入賞作品が出た喜びは大きかった。究めに究め尽くした作品の発表が「おもてなし」になります。今から来年の記念展を目指して会員一同頑張りましょう。

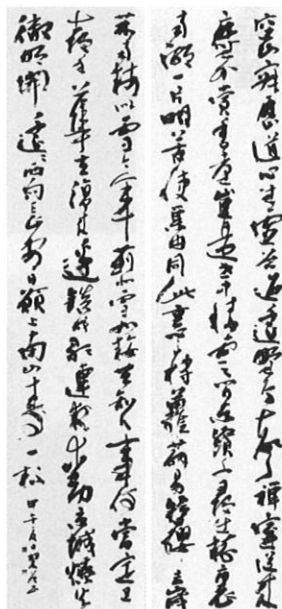
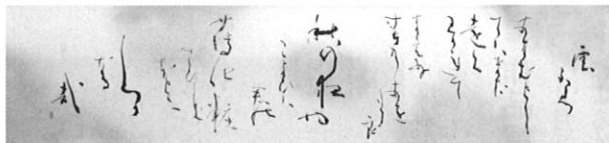


中村青藍先生

# 第49回貞香書展(優秀作品)

特別賞・同人推挙 末永江春

特別賞・同人推挙 中田翠苑



## 第49回 貞香書展入賞者

特別賞・同人推挙 末永江春 中田翠苑  
推薦 松田翠心 山崎香彩 上野泰徳 鈴木玲香

### 公募第一部

特選 上坂木蘭 渡辺桃舟 栗原美代子 近藤朗詠

### 準特選

大石碧堂 柳原桃心 根本柏暢 横張正子 西館昭美 大塚秀哉

### 秀作

竹野美香 一色朝美 白石真樹子 鈴木柏琴

### 阿部 匠

丹野菜重莉 吉田和春 岩館紅楓 世継仁美 北井康子 大田信子

### 公募第一部

阿部 匠 越川淑泉 五十嵐千佳子 森山真衣 彦田翠香 橋本竹泉

### 特選

藤原優子 栗林澄香 中川秀雲 戸田順子 森 佳鶴 小木曾礼

### 準特選

志太恵佳 伊藤白崧 塩味靖恵 鈴木葉香 湯川佳津代 松浦芳春

### 秀作

小湊 陽 雜賀誠芳 田辺由美 浦野芽衣 大崎素風 奥村珠翠

### 秀作

九里静泉 伊藤香風 今泉伊代子 豊田瑞空 戸田昭子 鳥谷部美優  
室井貴子 五喜田幽石 山口美津子 土屋秀樹 鈴木彩香 前川陽子  
榎木良裕 佐藤融雪 田仲玲奈 伊藤泉映 大木秀佳 後登政弘  
加藤岑翠 香取翠苑 那須久世 高梨峻玲 市原倅心 村田世志  
宮田奈摘 吉田 勇 川原幽香 山口美津子

## 第49回 貞香書展

### 《ダイジェスト》

#### ◎ 外部審査員による

#### 特別賞の審査・選考を実施

第49回貞香書展も、昨年度に引き続き、外部審査員を採用、書評論家である田宮文平氏に特別賞・同人推挙の審査・選考を依頼し、今年は末永江春先生の作品が選ばれた。

#### ◎ 第49回貞香書展より大幅改革、

#### 高校生も出品可能に

平成26年度総会で決定した改革事項により、第49回貞香書展から、出品資格を18歳から15歳（高校生）に年齢を引き下げ、高校生も出品が可能になった。また、高校生の出品料を第1部5千円、第2部を3千円とした。この改革により第49回貞香書展では、7名の高校生が力作を披露してくれた。

また、改革の二つ目として、公募部門を第1部、第2部とも、左記の通り四部門制に変更。作品のサイズは同一とし、一人一点を廃止して、他部門に複数出品できるようになった。

- ① 漢字多字数部（21文字以上）
- ② 漢字少字数部（20文字以下）
- ③ 仮名部
- ④ 詩文書部

#### ◎ 特別講演を開催

6月29日(日)午前10時～12時、国立新美術館講堂にて、特別講師に富田 淳先生（東京国立博物館 列品管理課長）をお招きして、「書譜と黄州寒食詩巻―台北故宮博物院の名跡―」の演題で講演を賜った。受講者多数で講堂は満員となり、充実した講演会となった。



講師・富田 淳先生



開会の挨拶をする赤平会長



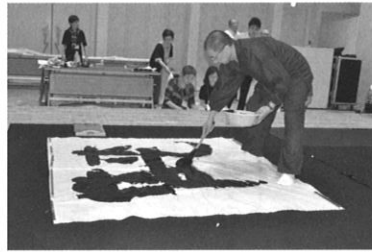
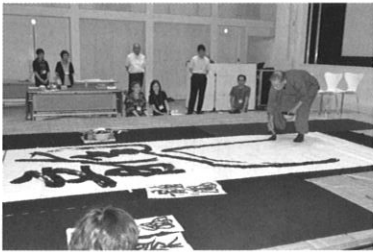
中村理事長より御礼の言葉

#### ◎ 作品解説を開催

7月2日(水)午後1時～2時、展示会場にて、参与の松本宜馨先生による作品解説を実施した。作品を前に、楽しく会員の方々に解説をされていた。

◎ 席上揮毫を開催

国立新美術館の3階講堂にて、7月2日(水)午後2時～3時、中村青藍理事長、奥山泰嶺副理事長・根本泰邸事務局長による席上揮毫を開催、多数の観客の前で見応えのある作品を揮毫された。



◎ 祝賀会を開催

銀座・サンミ高松において、6月29日(日)午後5時より祝賀会を開催。糸賀 靖夫様(毎日書道会専務理事)、マスコミ各社の方々など多数ご出席され、にぎやかに懇親会が行われ、大いに盛り上がった。



◎ 昇格者

第49回貞香書展受賞に伴い、本会の規定において、次回展より次の方が昇格になります。おめでとうございます。

〔同人推挙〕

末永江春 中田翠苑

〔準同人昇格〕

上野泰僊 鈴木玲香 松田翠心 山崎香彩

〔鑑別会員昇格〕

大石碧堂 大塚秀哉 小竹布美 白石真樹子

塚山清峰

〔会友昇格〕

上坂木蘭 大島京子 北井康子 近藤朗詠  
 鈴木柏琴 鈴木英男 山口和希子 吉田和蓉  
 渡辺萌苑



# 第66回 毎日書道展 《ダイジエスト》

## ◎長尾泰邨先生 毎日書道展審査委員会昇格祝賀会 開催

平成26年4月27日に池袋のホテルにて貞香会同人の長尾泰邨先生の毎日書道展審査委員会昇格を祝う会が催された。貞香会や所属する西蓮会の仲間など50名程がかけつけた。西蓮会を主宰する赤平泰処貞香会々長は祝辞の中で「3年に一度、審査委員会昇格審査の制度があり、その審査は大変厳しく難関である。今回は2×8尺の隸書作品2点を出品し、結果は審査員理事万票で推薦された。又、ここ数年は本展において常にも常に会員賞候補に残る実績が評価された」と称えた。又、顧問の中村素岳先生は挨拶の中で「審査委員の人数は埼玉県には23人いるが、青森県では長尾先生が3人目、重みがまるで違う」と激励された。又、お弟子さん達からのお祝いのビデオレター放映や、記念品の贈呈、そして長尾先生が得意とするシチリキで「ふるさと」を演奏するなど、大いに盛り上がりお開きとなった。



シチリキを演奏する長尾先生



長尾先生の今後の活躍にエールを送る赤平会長(右)



答礼に立たれる長尾先生

## ◎昇格者

第66回毎日書道展受賞に伴い、毎日書道会の規定において、次の方が昇格されました。おめでとうございます。

〔会員昇格〕 半田 桃香

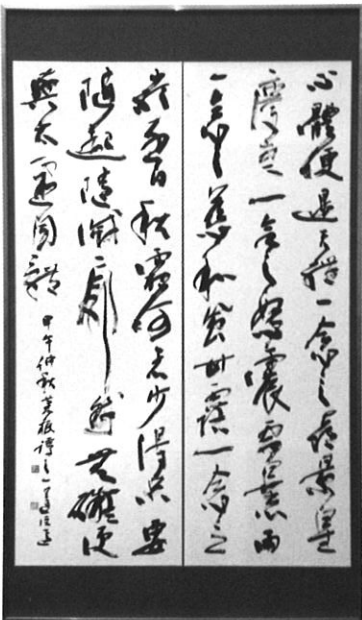
※会員昇格された半田桃香先生(貞香会同人)は、アートサロン毎日に開催される「2015年毎日書道店新会員作家展」において、第2期「平成27年3月9日(月)から14日(土)」に出品。

## ◎毎日書道展 審査会員―栃木の会書展の開催

栃木県の毎日書道展審査会員による栃木展は、平成26年度は第10回記念展を栃木県総合文化センターで開催。貞香会より、参与の松本宜響先生と理事の鈴木蓮徑先生が出品された。総勢15名の出品者の作品群は、漢字・詩文書・大字書・仮名・刻字・篆刻とバラエティにとび、一人5メートルの展示幅に2点ないし3点の見応えのある作品が展示された。



松本宜響先生 出品作品



鈴木蓮徑先生 出品作品

# 洗碑会（中村素堂先生33回忌法要並びに洗碑会）

五月二日、貞香会の創設者、中村素堂先生のお誕生日であるこの日、恒例の『如是我聞』記念碑の洗碑会のため、ご遺族、弟子、孫弟子、先生に所縁のある者が小石川傳通院に集う。しかし、本年度は特別な年、素堂先生がご逝去されて三十三回忌の年となることから、理事会で協議をし、例年の洗碑会に加えて、文京区小日向 深光寺へのお墓参り、傳通院本堂での三十三回忌法要を執り行うこととした。

初夏を思わせる陽気となった午後三時、東京メトロ丸ノ内線『茗荷谷駅』の改札を出たところで待ち合わせ、徒歩五分ほどの距離にある深光寺に向う。出席を予定された方々、全員が揃ったところで本堂裏へお墓参りに。般若心経の読経の中、ひとりひとりが線香を手向け全



員で合唱拝礼、素堂先生の仏果興隆を祈りました。本堂前に戻ると、副住職さんが素堂先生の屏風作品を広げてくださり、皆で鑑賞。素堂先生が揮毫された深光寺寺号額の下で記念撮影。その後、暑い中を傳通院まで歩いて移動。法要までの間、書院にてしばらく休憩。あちらこちらで思い出の会話が弾んでいた。

三十三回忌法要は、本堂内に席を改め、傳通院第七十七世御貫主、麻生諦善上人お導師のもと、傳通院式衆様にお勤めいただき執り行われた。記念碑前での洗碑会は例年の通り、菩薩願行文、般若心経を唱える中、今年は参加者全員が記念碑のプレートを浄める儀式を行った。

時刻は五時三十分、残念ながらご都合で帰宅される方もあったが、本堂地下ホールに会場を変え、素堂先生を偲ぶ会には三十五名が出席された。赤平会長挨拶、中村素岳顧問の献杯のご





発声が始まる。参加して下さった玉川堂 齋藤彰様、林田翠龍名誉同人、多くの方々に素堂先生との思い出をお話しいただいた。また、慶花堂勤務、本会同人の中村素堂氏が近年所蔵した素堂先生が三十代頃に揮毫されたという軸装作品数点を展示して皆で鑑賞させていただいた。最後は荒木大樹顧問に閉会のことばをいただき、名残惜しくも散会となった。

この一日、中村素堂先生の遺徳にふれ、心に誓うものがあつた。それは第五十回記念貞香書展の成功である。四十五回展開催後、出品点数の減少が続く。このままではいけない。今一度、素堂先生の教えを再確認し、会員一同が成功のために一丸となつて取り組まねばならない。個人の研鑽はもとより、斯道奨励のために会員は指導者としてひとりでも多くの公募出品者を育成し、先師の教えを継承していかねばならない。

洗碑会は来年で二十回を数える。洗碑会の頃には記念展の体制がほぼ決まっている頃と予想される。素堂先生に良いご報告ができることを祈念して改めて掌を合わせた。(根本泰郎記)



## 鍊成会

貞香会では平成26年3月29日(土)に南浦和・鷺毛堂の鍊成会場に於いて、毎日展、貞香書展に向けた鍊成会を行なった。講師は赤平泰処、松本宜響、中村青藍の各先生があたりられ、参加者は西蓮会、墨光会、柿木会、光明会、浄香会から38名が参加された。更に作品のみの参加も加わり、百畳敷きの会場は鍊成会特有の熱気に包まれていた。書いては眺め、書いては悩み、悩める参加者に講師の先生はやさしくアドバイスを送る。批評にとどまらず添削、手本の揮毫まで、鍊成会に参加しないと学べない光景だ。午後三時から

は批評会、用筆の変化や作品構成について一点一点丁寧なアドバイ스가あつた。次回は更に多くの社中からたくさんの方が参加されますよう期待し、早めの鍊成会を準備する予定です。

(理事一同)



# 〈平成二十六年年度事業報告〉

## 主な展覧会

### ○'14 貞香会総合書展

会期…平成26年1月19日(日)～24日(金)  
会場…上野・東京都美術館

### ○第57回東方書展

会期…平成26年4月1日(火)～6日(日)  
会場…上野・東京都美術館

### ○第49回貞香書展

会期…平成26年6月25日(水)～7月7日(月)  
会場…六本木・国立新美術館3A  
講演会…6月29日(日) 10時30分～12時 美術館内講堂

富田淳先生(東京国立博物館列品管理課長)  
演題「書譜と黄州寒食詩卷」  
―台北故宮博物院の名跡から―

作品解説…7月2日(水) 13時～14時 展覧会場内  
席上揮毫…7月2日(水) 14時～15時 美術館内講堂

### ○第66回毎日書道展東京展

会場…国立新美術館  
会期…平成26年7月9日(水)～8月3日(日)  
会場…東京都美術館  
会期…平成26年7月16日(水)～7月23日(水)

### 洗碑会 (中村素堂先生33回忌法要ならびに洗碑会)

日時…平成26年5月2日(金)  
午後3時～墓参(茗荷谷駅集合)  
午後4時半～法要  
午後5時～洗碑会  
午後5時半～偈ぶ会(会費6千円)  
会場…文京区小石川・伝通院

### 錬成会

日程…平成26年3月29日(土) 午前9時～午後5時  
会場…鷺毛堂錬成会場・さいたま市南区文蔵4-27-3  
内容…東方書展・毎日書道展・貞香書展に向けて  
作品制作および講習会

### 貞香会後援の展覧会

#### ○第36回東天会書展

会期…平成26年7月22日(火)～26日(土)  
会場…銀座・文藝春秋画廊

#### ○第28回西蓮会書展

会期…平成26年10月10日(金)～14日(火)  
会場…銀座・かねまつホール

#### ○中村素岳書展―墨磨人を求めて

第45回記念墨光書展  
会期…平成26年11月11日(火)～16日(日)  
会場…東京銀座画廊

# 〔平成二十七年行事予定〕

## ■ 主な展覧会

### ○ 15 貞香会総合書展

会期…平成27年1月20日(火)～24日(土)  
会場…上野・東京都美術館

### ○ 第58回東方書展

会期…平成27年4月1日(水)～5日(日)  
会場…上野・東京都美術館

### ○ 第50回記念貞香書展

併催…中村素堂遺作展  
会期…平成27年6月24日(水)～7月6日(月)  
会場…六本木・国立新美術館3A  
ギャラリートーク…6月25日(木)・26日(金)・27日(土)・  
28日(日)・7月4日(土)  
各回11時～12時 展覧会場内

席上揮毫…7月1日(水) 14時～15時 美術館内講堂  
講演会…7月4日(土) 14時30分～16時 美術館内講堂

大西克也先生(東京大学教授)  
演題「楚簡・秦簡より見た戦国時代の漢字について」  
祝賀会…7月4日(土) 18時30分開宴 如水会館

### ○ 第67回毎日書道展東京展

会場…国立新美術館  
会期…平成27年7月8日(水)～8月2日(日)  
会場…東京都美術館  
会期…平成26年7月17日(金)～7月23日(木)

## ■ 洗碑会

日時…平成27年5月2日(土)  
午後4時半～法要  
午後5時～洗碑会  
会場…文京区小石川・伝通院

## ■ 錬成会

日程…平成27年2月22日(日) 午前9時～午後5時  
会場…鷺毛堂錬成会場・さいたま市南区文蔵4・27・3  
内容…東方書展・毎日書道展・貞香書展に向けて  
作品制作および合評会

## ■ 貞香会後援の展覧会

### ○ 中村大如書展

会期…平成27年5月8日(金)～12日(火)  
会場…銀座・かねまつホール

### ○ 第37回東天会書展

会期…平成27年9月予定  
会場…千葉県匝瑳市八日市場公民館

### ○ 第29回西蓮会書展

会期…平成27年10月9日(金)～13日(火)  
会場…銀座・かねまつホール

### ○ 第46回墨光書展

会期…平成27年10月8日(木)～12日(月)  
会場…春日部市民文化会館

※この他、貞香会会員が活躍する展覧会の情報は、貞香会ホームページのインフォメーションにて掲載しています。詳しくは、そちらをご覧ください。

## 〈事務局だより〉

### ◇年会費について

◎平成27年度の年会費は、4月30日(木)までにご納入をお願いします。

◎平成26年度以前の年会費が未納の方は、お早めにお振込みをお願いします。

### ◇第50回記念貞香書展の出品規定について

◎第1部、第2部とも複数部門に出品可能  
(2014年度より改訂)

第1部、第2部とも、①漢字多字数(21文字以上)部門・

②漢字少字数小字数(1〜20文字以下)部門・③仮名部門・

④詩文書部門の部門に細分化されました。

第1部、第2部の両方にまたがって出品することはできませんが、第1部、第2部の中で複数部門に出品することが可能です。その場合、2作品目は出品料の割引制度が適用されません。

### ◎高校生出品可能

年齢満15歳(高校生)以上の方なら誰でも、第1部、第2部どちらかに出品することができます。出品料は、第1部は5千円、第2部は3千円です。

※詳しくは、第50回記念貞香書展出品規定をご覧ください。

なお、ご不明な点がありましたら、貞香会事務局までお尋ねください。

### ◎記念展の作品集作成

第50回を記念して作品集を作成します。

第1部に出品者は、全員作品が掲載されます。

これに伴い、第1部に出品される方、作品の写真撮影がありますので、5月15日(金)までに各表具店に作品を搬入してください。締切厳守をお願いします。(締切を過ぎますと、作品集に載らない場合がありますので、ご注意ください。)

### ◇住所変更について

住所・連絡先など変更がある方は、貞香会事務局までFAXまたはハガキなどの書面にてお知らせください。

### ◇会員の方の関係書道展について

会員の皆さんが活躍する書道展や催しものなどの情報を、貞香会事務局までお寄せください。展覧会の案内ハガキなど詳細をご郵送いただければ、貞香会ホームページのインフォメーションに掲載いたします。

### ◇ご意見・ご要望など

貞香会に関連する展覧会や行事などで、会員の皆さまよりご意見・ご要望などありましたら、貞香会事務局まで書面にてお寄せください。

### 【貞香会事務局移転のお知らせ】

平成27年4月1日(水)より、貞香会事務局が左記の住所に移転します。

〒一三五〇〇〇七 東京都江東区新大橋一―五―四―二―一  
根本方

※移転先の電話番号等は改めてお知らせします。

❖表紙・中村素堂先生作品

(宮中にて)

ひさかたのうら、春日のさしすける  
白きとほりのあやにすかしも

(ふちばかま)

昭和三十年(一九五五)

### 【編集後記】

❖第50回貞香書展を記念して、目下様々な記念事業を企画・準備中です。

また、貞香会のホームページのリニューアルも予定しています。

どうぞ、ご期待ください！

(泰邸)

❖平成二十六年は、広島の土石流や御嶽山の噴火などの自然災害のニュースに、大きな衝撃を受けました。

あらためて、日常の変わりない生活と、筆が持てる日々感謝です。

平成二十七年はいよいよ、貞香書展五十回記念です。  
(彩心)

平成二十六年度(二〇一四年)

## 会報(第四号)

発行日 平成二十七年三月九日(月)

編集・発行 貞香会

東京都港区浜松町一―二六―四

〇三(三四三三) 六六二六

印刷・製本 富寿印刷

東京都文京区大塚三―三六―九

〇三(三九四四) 一一四一